

中央大学 学部別総評

★学部別傾向★

明治と同様。内容的に“この学部だからこの分野・テーマ単元”が良く出題されるというのは全くナシ。戦後史が多いかも文化史が多いかもマチマチ。志望する学部の過去問を繰り返し、しかも何年分もやってもほとんど効果は無い。

ただ、出題形式や問題のレベルには学部間に大きな差があるので、早めに過去2～3年分には軽く目を通し、対策の筋道は作っておこう。空欄補充の記述・選択型か、長文正誤選択問題中心か、短文論述があるのかないのかなどをしっかりと見極めておかねば、一問一答か正誤演習かと対策が大きく変わるので効力に問題が出るだろう。出題内容は基本的にスライド出題。過去3年分の中から志望学部で出題されていない単元や分野を絞り込むのも良からう。

★年度別傾向★

他大学と同様に、同年に出題される内容に類似性が強い。同じ単元は勿論、同じテーマや同じ選択肢などが出題される。その年の他学部で出題された地域と同地域、同時代、同テーマのチェックは合否の鍵となる。また、特に前年度に出題されたテーマや地域・単元は多少形を変えて、他学部で出題される（スライド出題）パターンが続いているので、早めに前年の全ての学部の問題研究は確実にしておきたい。 *講義内でコメント有り*

★配点表★

文学部	英150	国100	地歴100
法学部	英150	国100	地歴100
経済学部	英150	国100	地歴100
商学部	英150	国100	地歴100

★全体的に…★

明治大学と同配点で問題形式やレベルにおいても類似しているため、世界史への考え方は同じ。しかし、学部別の出題レベルの差が著しく違うため、中央大学の問題のレベルは？・・・と質問されても、一言では言えないので少々困る。

正誤問題の多い法学部・商学部はやや難問（特に正誤選択）がそろい踏みで苦手者は歯が立たないので英国で8割越え。世界史は7割程度で逃げ切り。一方、空所補充の多い経済学部・文学部は比較的高得点が狙えるといった感じなので、世界史巧者は満点～9割越え狙い、苦手者でも

一問一答&流れで7割5分越えは難しくない。

また、経済学部では、時々社会・経済・労働特殊用語が出題されるので、経済史（文化史）は逃げられない。過去の出題にチェックを入れておけ。

統一入試 A～B（正誤はやや難）

★商学部と類似した出題形式・出題レベルなので、参考にしてみると良い。空所補充も正誤選択もバランスよく出題される。戦後史・文化史も幅広く出題され、地図や写真が出題される時もある。広く、浅くをイメージして、穴がないように学習したい。商学部（経営・金融）と内容的・レベル的には同じ。少々、正誤が面倒なモノが多いので、センターレベル以上の正誤対策（法学部レベルが3～4問あり）は必ず必要になるだろう。点差は付く。

文学部 A～B

★記述問題が9割程度、教科書レベルの出題が約8割強。辺境地域史の出題が多く、そのためにテーマ的な地域史学習が必要となる。しかし、用語のレベルが低いので通史学習で十分通用はする。大問は4問、欧米史：アジア史＝1：1。欧米史は古代～近代が1問、近現代～戦後が1問。アジア史は1問、テーマ史が1問。オリエントの出題率が高く、中国史は隔年になってきており、1つは特殊テーマが出題されている。文化史は文化テーマ史としての出題が多いので準備が必要。地図と年代にも注意。

法学部（法律・国際企業） A～C

★2015年入試から法律学科と国際企業学科の問題が同じになり、問題自体も易化した。内容的には国際企業学科の方を踏襲した問題になっている。各国史・テーマ史が基本で大問3問。文化史も戦後史もそれなりには出題されるが、各国史・テーマ史の一部として出題されることが多いので、戦後史・文化史ともに10%程度ある。8割が記述式なので漢字には注意。文章正誤が50問中6～7問弱、新たに20～35字程度の短文論述が出題されるが差ほど気にする必要はない。*2012年に突然、戦後史が3割以上出題されて、受験者の度肝を抜いた。

法学部（政治） A～B

★同学部の法律・国企と問題のレベル・形式が類似しているので参考にして欲しい。一問一答形式が全体の8割で記述がそのうちの9割。中国史の漢字には要注意。文章正誤は5～6問程度でセンターレベル以上ではあるがハイレベルではない。3つの文の各々の正誤を聞かれるので完答は難しい。各国史・テーマ史の出題が多いため、戦後史・文化史が特別

に大量に出ることは稀ではあるが、2013・2014年と戦後史が大問1つで出題されているのは怖い。

商学部（経営・金融） A～C

★法学部の問題と類似し、空所補充の問一答が全体の8割程度で、そのうち9割が記述式である。やはり、漢字の用語には注意をしたい。2012年頃から問題のレベルが易しくなり、2015年には難解だった文章正誤問題も3～4問に減り、その問題も易しくなった。相変わらず、文化史よりは戦後史の方が厄介で、基礎レベルでは戦後史は戦えない。大問1つ（全体の25～30%）が戦後史も頭に入れておこう。地図や写真・絵画の出題も少なくないので、もう1つの商学部同様にチェックは大切であろう。

経済学部（経済、経済システム、公共・環境経済） A～B

★2015年から全体の問題数が減った。今までは大問4問＋短文論述数問という問題量に多くの受験生が苦しめられてきたが、2015年から問題数も短文論述の数も大きく減った。ただ、恒例の「ちょっと変わったテーマ史・辺境地域史」と150字の論述×2問は相変わらず健在。ただ、レベルは偏差値55～56程度で十分に戦えるレベル。文章正誤問題も10点以内で簡単。しかし、9割が記述式なので注意したい。また、年代の並べ替えの出題が増えていることは注目すべきこと。有名な出来事の流れを話せるようにしておこう。

経済学部（産業経済・国際経済） A～B

★商学部と類似している出題形式なので商学部（会計・商業・貿易）を参照してみよう。長文内の適語補充形式が7割で大半が記述、正誤選択は2割程度、短文論述は100～200字程度が1～2問。ちょっと変わったテーマ・辺境史が時々出題されるが難しくはないが、戦後史や地図の出題はやや難になるので注意せよ！

商学部（会計・商業・貿易） A～C

★商学部（経営・金融）とは今まで大きくレベルも形式も違っていたが、2015年からは基本類似させたようだ。空所補充の問一答が全体の8割程度で、そのうち9割が記述式。やはり、漢字の用語には注意をしたい。伝統的な中央の難解文章正誤問題は1つに2～3問あるかないかに減少したので、これで足をひっぱる量ではなくなった。過去問をやる時には注意したい。戦後史は今まで通り、基礎レベルでは戦えないので注意が必要。地図や写真・絵画の出題も少なくないので、もう1つの商学部同様にチェックは大切であろう。

A・・・基礎レベル、教科書・センターレベル、用語集頻度7以上

B・・・標準～応用レベル、正誤問題が手強い、用語集頻度4以上

C・・・ハイレベル、誤りなしの正誤問題がやや難、用語集頻度無視